



平成17年2月16日

各位

会社名 旭硝子株式会社
代表者名 代表取締役・社長執行役員 門松正宏
(コード番号 5201 東証第1部)
問合せ先 広報室長 川上真一
(TEL. 03 - 3218 - 5509)

会社名 旭テクノグラス株式会社
代表者名 取締役社長 勝又雅之
(コード番号 5215 東証第2部)
問合せ先 常務取締役 山口隆耿
(TEL. 047 - 421 - 2310)

旭硝子株式会社による旭テクノグラス株式会社の完全子会社化について

旭硝子株式会社(以下、旭硝子)と旭テクノグラス株式会社(以下、旭テクノグラス)は、平成17年2月16日開催のそれぞれの取締役会において、株式交換により旭硝子が旭テクノグラスを完全子会社(100%子会社)化することを決議し、株式交換契約を締結しましたのでお知らせします。

本年3月25日開催予定の旭テクノグラスの定時株主総会において株式交換契約書の承認を得た上で、本年7月1日を株式交換の日とする予定です。なお、旭硝子については、商法第358条に基づき、株主総会の承認を必要としない「簡易株式交換」の手続きにより行います。

1. 株式交換による完全子会社化の目的

旭テクノグラスは、平成11年1月に旭硝子グループの旧岩城硝子株式会社が旧東芝硝子株式会社と合併した「旭硝子グループにおける特殊ガラス分野の中核会社」であり、長年にわたり蓄積された特殊ガラス分野の技術をベースとして、照明、食器、機能材料(電子・工業用材料)、理化学・バイオ、光学薄膜などの多様な分野において様々な製品とサービスを提供しています。また、本年度からスタートした中期経営計画 Act57 においても、特殊ガラスをベースとしたスペシャリティーマテリアル事業を基軸とする成長戦略を構築し、推進しています。

旭硝子は、グループビジョン “Look Beyond” において、エレクトロニクス&エネルギー部材事業(以下、E & E 事業)を次の成長の柱と決めました。さらに、本年度からの中期経営計画 “JIKKO-2007” においては、E & E 事業に積極的に経営資源を投入し、更なる事業基盤の整備を進め、自社で保有するガラス、フッ素化学関連技術をベースとしたスペシャリティーマテリアルを中心に、既存の電子部材事業を核としたE & E 事業を本格的に展開することとしています。

E & E 事業分野においては、両社の連携によるシナジーを創出し、収益力向上を図ることができる事業が数多く存在します。この分野において、グループ経営資源を集約化し、従来以上に迅速かつ機動的な事業運営を推進していくためには、両社が一体化し、より一層連携を図ることで、旭テクノグラスが有する特殊ガラスに関する技術力・開発力・販売力等を旭硝子グループにおける事業基盤の一つとして強化することが必要です。

このため、株式交換による旭テクノグラスの完全子会社化を実施することとしました。今回の完全子会社化により、両社間において次のようなシナジーが期待できます。

E & E 事業分野の既存事業におけるバリューチェーンの強化
スペシャリティーマテリアルの要素技術プラットフォームの集約、強化
技術開発、新事業開発に関する情報共有と役割の明確化
職能部門の効率的な有効活用

これらのシナジー創出により、旭硝子グループとしてスペシャリティーマテリアル事業の競争力を一層強化し、E & E 事業の更なる成長・拡大を図り、お客様に提供する商品、サービスの品質を従来以上に向上させ、グループ全体の企業価値を高めていきます。

2. 株式交換の条件等

(1) 株式交換の日程

平成17年2月16日	株式交換契約書承認取締役会
平成17年2月16日	株式交換契約書の締結
平成17年3月25日(予定)	株式交換契約書承認株主総会(旭テクノグラス)
平成17年7月1日(予定)	株式交換期日

(注) 旭硝子は、本株式交換については、商法第358条に基づき、株主総会の承認を必要としない「簡易株式交換」の手続きにより行います。

(2) 株式交換比率

	旭硝子 (完全親会社)	旭テクノグラス (完全子会社)
株式交換比率	1	0.50

(注) 1. 株式の割当比率

旭テクノグラスの普通株式1株に対して、旭硝子が新たに発行する普通株式0.50株を割当て交付します。ただし、旭硝子が保有する旭テクノグラスの普通株式38,810,000株については、割当交付を行いません。

2. 株式交換比率の算定根拠

旭硝子は野村證券株式会社に、旭テクノグラスは監査法人トーマツに、それぞれ株式交換比率の算定を依頼し、その算定結果を参考として、両社間で協議し決定しました。

3. 第三者機関による算定結果、算定方法及び算定根拠

上記の算定依頼先は、以下の評価方法のうち、複数の方法を用いて、旭硝子及び旭テクノグラスの企業評価を行いました。

- ・市場株価平均法
- ・DCF法
- ・類似会社比較法
- ・類似会社のEBIT及びEBITDA倍率法

4. 株式交換により旭硝子が交付する新株式数

普通株式 10,756,200株

(3) 株式交換交付金

株式交換交付金の支払いはありません。

3. 株式交換の当事会社の概要

(1) 商号	旭硝子株式会社 (完全親会社)	旭テクノグラス株式会社 (完全子会社)
(2) 事業内容	ガラス製品、化学製品、電子・ディスプレイ材料などの製造及び販売	特殊ガラス製品などの製造及び販売
(3) 設立年月日	昭和25年6月1日	昭和12年10月5日
(4) 本店所在地	東京都千代田区有楽町一丁目12番1号	千葉県船橋市行田一丁目50番1号
(5) 代表者	代表取締役 門松正宏	取締役社長 勝又雅之
(6) 資本金	90,472百万円	7,233百万円
(7) 発行済株式総数	1,175,242千株	60,322千株
(8) 株主資本	581,995百万円	20,522百万円
(9) 総資産	1,065,033百万円	39,375百万円
(10) 決算期	12月	12月

(11) 従業員数	5,886名	793名
(12) 主要取引先	旭硝子ファインテクノ台湾、 韓旭テクノグラス、他	旭硝子、東芝ライテック、そ の他電子部材メーカー等
(13) 大株主及び 持株比率 (平成16年12月31日現在)	日本スタートラスト信託銀行株式 会社信託口 6.46% ガチー・スマンハツパノクイロント ン 5.59% 日本トラスティ・サービス信託銀行株 式会社信託口 5.53% 明治安田生命保険相互会社 4.52% 東京海上日動火災保険株式 会社 4.00%	旭硝子株式会社 64.34% 旭テクノグラス取引先持株 会 3.58% 日本トラスティ・サービス信託銀行株 式会社信託口 2.43% 日本スタートラスト信託銀行株式 会社信託口 1.10% 株式会社東京三菱銀行 0.91%
(14) 主要取引先銀行	株式会社東京三菱銀行 株式会社みずほコーポレー ト銀行	株式会社東京三菱銀行 株式会社みずほコーポレー ト銀行
(15) 当事会社の関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資本関係...旭硝子は旭テクノグラス株式の64.34%を保有 しています。 ・ 人的関係...旭硝子の執行役員及び従業員が旭テクノグラ スの監査役(3名)を兼務しております。また、 旭テクノグラスの従業員の一部は旭硝子から の派遣です。 ・ 取引関係...旭硝子は旭テクノグラスに対し役務の提供等 を行い、また、旭テクノグラスは旭硝子に対 しフリット等の製品を供給するなどの取引関 係があります。 	

(16) 最近3決算期間の業績

(単位：百万円)

決算期	旭硝子株式会社 (完全親会社)			旭テクノグラス株式会社 (完全子会社)		
	平成15年 3月期	平成15年 12月期	平成16年 12月期	平成14年 12月期	平成15年 12月期	平成16年 12月期
売上高	542,843	413,656	579,875	32,451	30,081	31,904
営業利益	5,263	5,817	37,152	551	543	1,910
経常利益	11,046	8,870	41,257	370	910	2,022
当期純利益	28,763	14,759	33,268	3,715	905	1,849

1株当たり 当期純利益 (円)	24.49	12.54	28.34	61.60	15.02	30.67
1株当たり 配当金(円)	9.00	6.75	12.00			4.00
1株当たり 株主資本(円)	443.21	479.45	500.77	293.68	309.03	340.34

旭硝子株の平成15年12月期は、決算期変更に伴い9ヶ月決算となっています。
は損失を示しています。

4. 株式交換後の状況

(1) 当事会社それぞれについて、商号、事業内容、本店所在地、代表者、資本金に変更はありません。

(2) 業績に与える影響

旭テクノグラスは、従来より旭硝子の連結子会社であり、本株式交換実施に伴う旭硝子及び旭テクノグラスの業績への影響は軽微です。

なお、本件につきましては、平成17年2月16日に、旭硝子並びに旭テクノグラスがそれぞれ発表した平成17年12月期の単独業績予想及び連結業績予想に織り込んでいます。

以上